

塚田の会と地域住民のゆるやかな連携

～塚田の会の成り立ち～

令和元年秋、東武塚田クリニック・林先生より介護保険事業所の有志達及び塚田地域包括支援センターに対し、『塚田地区に住んでいる人たちが安心して暮らせる地域づくりをしていきたい』という思いを打ち明けられた。

まずは、介護保険事業所の有志達が、『介護保険法の趣旨に則った事業展開、顔の見える関係づくりをしていこう』という目標を掲げた。

その根底には『塚田地区に住む人が困ったときに、互いに手を差し伸べ合える地域を作ろう！』という共通の思いがある。

令和2年2月1日に塚田の会が発足。研修会・懇親会を開催し、30名以上が出席した。林先生から「地域包括ケアシステムにおける医療と介護の連携について」の講義、ワールドカフェ方式でそれぞれの立場での自分たちの思いを話し合い相互理解を深めた。

世話人を中心にして、活動をスタート！

『塚田の「つ」は「T」のポーズ』



発足直後にコロナ禍!!

塚田の会が発足した直後、新型コロナウイルス感染症が拡大してしまっ。従来の参集方式では塚田の会の開催ができなくなり、どうしたらいいのか？

そこで、当時はまだあまり普及していなかったZOOMを活用した研修会を他の地域に先駆けて、開催することに挑戦した。

【令和2年度の活動】

- ①5月 塚田の会 メーリングリスト作成
- ②6月 介護ソフト会社の協力を得て、準備開始
ZOOMの操作方法の勉強会を実施！
- ③9月 ケアマネサロン開催
ZOOMと参集のハイブリッド方式が成功！
- ④令和3年1月 災害対策と感染症についての勉強会

【令和3年度の活動】

- ①9月 成年後見制度について
- ②10月・11月 BCP策定について
- ③12月 多職種連携の事例検討会
- ④令和4年2月 看取り期における支援者の役割
- ⑤令和4年3月 特定事業所加算算定事業所共催研修
事例検討会 スーパービジョンについて

コロナ禍だからこそ、つながりを途絶えないようにしたい。ZOOM・参集での開催が増え、塚田の会の活動が活発になる

塚田の会

塚田地区にある すべての介護保険事業所

訪問介護・訪問入浴
通所介護・訪問看護
訪問リハビリテーション
特別養護老人ホーム
認知症高齢者グループホーム
サービス付き高齢者向け住宅
住宅型有料老人ホーム
福祉用具貸与・販売
地域密着型通所介護
定期巡回・随時対応型訪問介護看護
看護小規模多機能型居宅介護
居宅介護支援事業所等

講師の紹介

- 東武塚田クリニック 林直樹先生
- 板倉病院 赤川和弘先生(ビデオ出演)
- 公益社団法人コスモス成年後見サポートセンター千葉県支部 行政書士 桑本博氏
- 千葉県介護支援専門員指導者 高階秀子氏
- 公益社団法人 船橋地域福祉・介護・医療推進機構理事 社会保険労務士 植松健氏
- 船橋市役所 地域包括ケア推進課 権利擁護サポートセンター
- 船橋警察署生活安全課 木崎俊介氏
- 船橋市立リハビリテーション病院 鳥居和雄氏
- 厚生労働省の動画
(BCP策定や認知症の人の意思決定支援)
- 塚田の会のメンバー及び
塚田地域包括支援センター職員 (順不同)



活動報告

～地域との交流を目指して～

【令和4年度】

- ①令和4年4・5月 BCPについて
リハビリ専門職同行訪問事業の周知
- ②令和4年6月 認知症の人の意思決定支援について
- ③令和4年7月 地域ケア会議構成団体と塚田の会の交流会
～個別ケア会議を模擬事例で体験しよう～
- ④令和4年9月 虐待防止のための対策を検討する委員会立ち上げのためのミーティング
- ⑤令和4年10月 虐待防止のための対策を検討する定期委員会
- ⑥令和4年11月 成年後見制度の基礎知識について
- ⑦令和5年3月 特定事業所加算算定事業所共催研修
事例検討会
～どうする？あなたが虐待事例を担当したら～

【令和5年度】

- ①令和5年4月 「赤川先生に聞いてみよう」シリーズ DVD視聴
①高齢者虐待ってナニ？ ②8050ケース支援について
- ②令和5年6月 地域ケア会議構成団体と塚田の会の交流会
～中核機関の役割と成年後見制度の理解～
- ③令和5年8月 虐待防止のための指針についての検討会
- ④令和5年11月 虐待防止のための対策を検討する定期委員会
- ⑤令和5年12月 塚田の会と地域住民の合同勉強会
～地域の防犯活動について～
- ⑥令和6年3月(予定) 特定事業所加算算定事業所共催研修
地域リハビリテーションについて
～いつでもどこでもその人らしく過ごすことを考えよう～

活動の効果は・・・

- 地域の介護事業所だけでなく、民生委員、社会福祉協議会、自治会役員、UR関係者など地域関係者との連携が図れる。塚田地区ならではの地域課題や特性の理解を深められた。
- 研修はケアマネージャー向けで開催されることが多いのが現状である。しかし、訪問介護や訪問看護、デイサービスセンターなど様々な事業所が合同で勉強会を行い、意見交換を行うことで多角的な視点が持て、多業種との連携を深めることができる。
- 小規模事業所が単独で行うことが大変なことを担保するようにしている。例えば、虐待防止における指針の定期委員会や研修の開催などを合同で実施することで、負担軽減と業務連携が出来る。
- BCPって何？と何度も集まり、ディスカッションを行うことで災害への意識が高まった。ホームページやハザードマップの情報をもとに具体的に確認できた。
- 手作りの企画運営と講師の方々のご厚意により研修を開催しているので、研修の参加費は徴収はない。
- 早期にみんなでZOOMを勉強したことがとても良かった。ZOOMによる研修に参加する心理的抵抗がなかったという声があった。
- メンバーからグループワークを毎回行ってほしいと要望があり、コミュニケーションが活発になっている。



塚田地域包括支援センター

塚田の住民のみなさん

やりたいこと

- 介護保険事業所間のネットワークだけでなく、塚田地区に暮らす住民との顔の見える関係づくりを継続し、連携を図っていく。
- クリニックや歯科、薬局などの医療とのさらなる連携を図りたい。
- 地域住民がふらっと立ち寄れる場所ができないか。
- 住民から地域のことを教えてもらう機会となる交流会・合同勉強会を続けていきたい。
- 塚田の会の継続が負担にならないように、ゆるやかに連携していき、メンバーからの提案をどんどん取り入れたい。
- 多職種での勉強会の推進、メンバーがお互いに講師になるようにしていきたい。

『会則なし、役員なし、会費なしで「多職種連携+地域」をモットーに勉強会や交流会をゆるやかに開催している多様な組織』であるメリットを活かして、いろいろなことに挑戦していきたい
(世話人：和花ケアマネジメント 長谷川祐子)